

日本歴史の旅

源氏物語コース

監修／奈良本辰也・邦光史郎

執筆／邦光史郎・駒 敏郎・百瀬明治

◆読者の皆様へお願い

毎度ご購入を賜わりまして有難うございます。この本をお読みになって、どのような感想をお持ちでしょうか。

今後の企画の参考にさせていただきますたいと思いますので、ぜひご意見をお寄せ下さい。

また、この本の内容につきまして、一字でも間違いのないよう注意しておりますが、万一、お気づきの点がありましたらご教示下さい。

東京都千代田区丸の内三ノ二

新東京ビル内

株式会社 新人物往来社 出版部

源氏物語コース

日本歴史の旅 3

昭和44年10月25日 初版印刷 ©
昭和44年11月1日 初版発行

¥ 580

監修者 奈良本辰也・邦光史郎
著者 邦光史郎・駒敏郎
百瀬明治
発行者 菅 貞 人
発行所 株式会社 新人物往来社



検印廃止

東京都千代田区丸の内 3-2 新東京ビル
電話 (212) 3931 (代表) 振替東京151643
印刷 重光印刷株式会社
製本 有限会社 河上製本工場

落丁・乱丁本はお買上げ書店または本社でお取替えします。

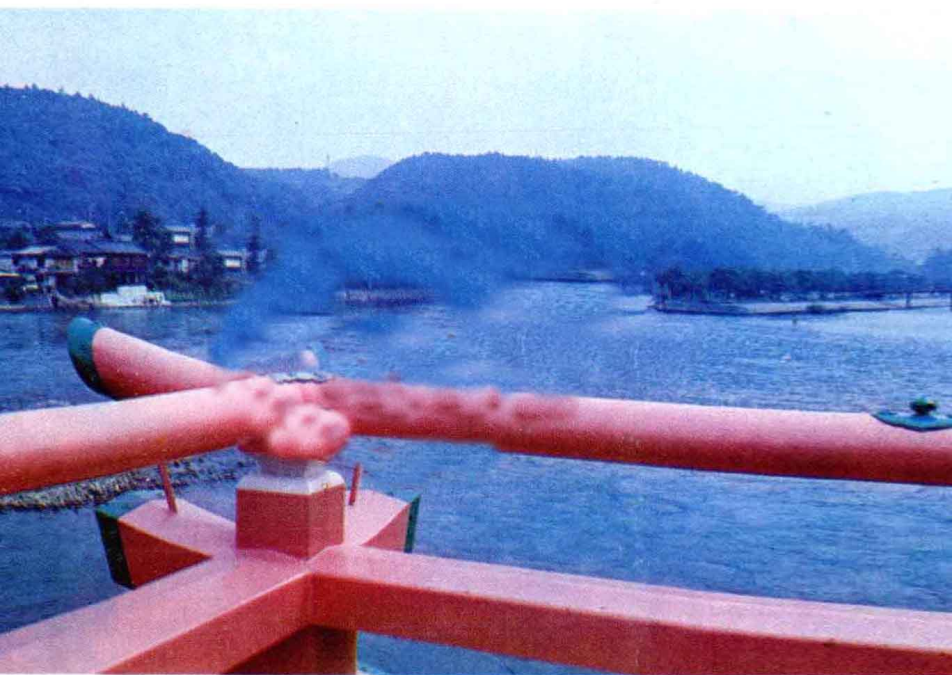
〒 100

日本歴史の旅 (3)

源氏物語コース

監修／奈良本辰也・邦光史郎

執筆／邦光史郎・駒敏郎・百瀬明治



新人物往来社

源氏物語絵巻 御法(みのり) 長い間病床に臥していた光源氏最

愛の妻紫の上は、明日をも知れぬ命である。野分の風が吹き荒れる秋の夕暮、源氏は明石中宮を伴って見舞った。紫の上は、珍しく起きて脇息にもたれ、源氏としばらく歌のやりとりをした。「置くとみるほとぞはかなきともすれば風に乱るる萩の上露」紫の上の別れの歌に源氏は涙をおさえ、「ややもせば消えをあらそう露の世に、遅れ先立つほどへずもかな」と歌を返した。しかし紫の上は、この直後、ついに死の世界に誘われてしまった。(東京 五島美術館蔵)





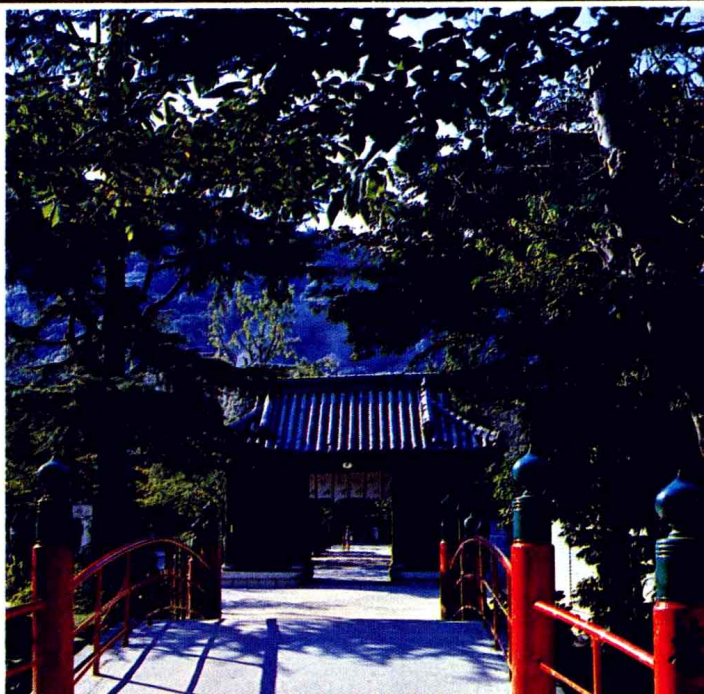
(㊦) 賀茂葵祭り

5月15日、賀茂葵（ふたばあおい）と藤で飾った牛車を中心とする王朝風の行列は、京都御所を出発し、葵橋を渡り、下鴨神社・上賀茂神社に参詣する。帰りは賀茂の堤を下って御所に帰る。往時は、祭りといえはこの賀茂祭りを指した。その後千年を経た今も盛大に行なわれ、王朝の面影を伝えている。

(下) 賀茂御祖神社（下鴨神社）

賀茂川と高野川の合流地点、こんもりと樹木におおわれた糺（ただす）の森を抜けると社前に出る。光源氏が美しい少女若紫とつれだつて見物した賀茂祭りはこの社と、賀茂川上流3キロの地にある上賀茂神社の祭りである。





(右) 上野山福祥寺（須磨寺）

須磨に隠棲した光源氏が住んだ場所は、この須磨寺付近だという。ここはその後の一の谷合戦平家ゆかりの寺としても知られ、多くの寺宝を蔵している。

(左) 鞍馬寺の石段

「ちかくて遠きは鞍馬のつづらをり」と枕草子に書かれたように、鞍馬寺の参道は屈折の多い山道である。現在はケーブルもあるが、このつづら坂をのぼると、随所に王朝の面影がしのばれる。



明石の海 明石海峡をへだてて淡路島を望む美しい自然に恵まれた明石には光源氏の遺跡と称せられるものが数多くある。海岸近くにある無量光寺は、別名月見寺といわれ、月見池・薦の細道・岡辺の館・源氏屋敷などがある。



(上) 紅葉の嵐山

上流は保津川、下流を桂川と呼ぶ大堰川は、古来花と紅葉の景勝地として知られ、「大井川河辺の松に言問はんかかる御幸もありしむかしも紀貫之」と歌われるほど、春秋都人に詩歌管弦の遊びの地として愛された。

(左) 野の宮神社

宮城内齋院で一年間の潔斎を終えた皇女は、人里はなれた野の宮に入り、ふたたび一年間の潔斎を行なった。



(上) 横川中堂跡 恋の板挟みで出奔した浮舟を救う横川の僧都が住んでいたのも、その後出家した浮舟が静かにくらしただろうものあたりだろう。

(右) 石山寺多宝塔 多くの平安貴族が参詣した石山寺は、王朝文学史上重要な役割を果たした。写真は国宝の多宝塔であるが、同じく国宝の本堂には、紫式部が源氏物語を書いたという源氏の間がある。





(上) 廬山寺源氏庭 京都御所のすぐ東隣の廬山寺一帯は、紫式部邸跡だといわれている。当寺内には、平安朝の庭園を模した源氏庭がある。

(右上) 京都御所築地堀 平安京の内裏はしばしば火災にあい現存するものはない。今の京都御所は里内裏のひとつでもと藤原邦綱の東洞院土御門殿であった。その後改築を重ね現在の建物は安政2年の建造。

(右下) 平等院鳳凰堂 藤原頼通の建立した宇治の平等院鳳凰堂はその美しい姿によって、当時の末法思想、浄土信仰を物語って余りあるものがある。権力・財力をともに手中にした頼通ならではの御堂である。



いわれ、平安時代のはじめ嵯峨天皇の離宮であつ
院の風格は失われず、寝殿造りなど平安朝の雰囲
というのもこのあたりではなかったか。



大沢の池に影を落とす大覚寺 京都嵯峨野にある大覚寺は、もと嵯峨御所とたが、その後、清和天皇が寺に改めたものである。いまもわが国最古の門跡寺気をよくとどめている。源氏物語の主人公光源氏が晩年御堂を建てて隠棲した



春の仁和寺 仁和寺のある御室は、平安貴族の別荘地であった。
源氏物語の朱雀院が出家した西山御堂のモデルも仁和寺である。

神泉苑 王朝の貴族たちが、龍頭鷁首の舟を池に浮かべ、詩歌管
弦の才を競った神泉苑。いまは、ごく一部分しか残っていない。





北野天満宮 かつての大内裏の北にある北野天満宮は、藤原氏の他氏排斥の犠牲となった菅原道真を祀っている。道真は、藤原時平らの謀略によって大宰府へ左遷されたが、延喜3年（903）その地で悶死した。この頃都では天変地異が相ついで起こり、人びとは道真の怨霊だと噂した。この荒びる怨霊を鎮めるため建てられたのが北野天満宮である。